

新たな支援制度による町民負担は

小口委員 庁舎建設に対する国の支援制度を活用した場合、どれくらい町民負担が少なくなるのか。

当局 実質的な負担額は約1億8千万円の圧縮がはかられる。

また、基金繰り入れも当初8億円から4億2千万円と、約3億8千万円の基金留保が可能であり、この分、町民負担が少なくなると考えている。



みんなで花いっぱいに

花いっぱい運動と
ゴミ減量運動の状況は

石川委員 道路沿いや学校花壇

等への花いっぱい運動をすすめているが、進捗状況は、また、ゴミ減量への取り組みは。

複合施設整備の事業費の増額は

佐々木委員 計画の甘さや物価の高騰などによる、事業費の大幅な増額は本当にないのか。

当局 これまで、事業費の大額な増額は本当にないのか。

佐々木委員 これまで、事業費の大額な増額は本当にないのか。

当局 東日本大震災に絡む物価の高騰なども加味しながら相当詳しく調査してきた。常に現在予定の事業費を上限と考え取り組んでいきたい。

危険交差点の安全対策は

小口委員 今年はインターハイウェイが開催され、2万人から3万人の来町が予想される。危険交差点の安全対策は。

当局 鮎貝地区内の交差点も現場確認している。白線等の道路標示が見えている。



塩分ひかえめ、手づくりおにぎり

民生費

福祉型小さな拠点づくり事業の目指すものは

親への健康指導は

笹原委員 子どもの健康づくり

親の世代にも指導は行うのか。

健診の結果を受けて、

佐々木委員 元気な高齢者の集いがあるが、どこを拠点と想定しているか。

また事業の狙いは。

当局 趣味の活動などを通じ、高齢者の閉じこもり予防や、障がいのある方、

くくなっているスポーツ公園周辺の十字路を中心、再度整備していく。また、各小学校、中学校の通学路も早急に対応していく。

当局 保護者への周知は、PTA総会や保護者会の時に行う。さらに保育園の保護者にも周知していく。

引きこもりの方や子どもなど、誰もが交流できる居場所を作りたい。鮎貝地内の一軒家を借りることを想定している。

農林水産業費

農業振興地域整備計画策定事業とは

田中委員 28年度の基礎調査と

計画の見直しとは何か。農用地の管理とシステムをどのように活用するのか。

当局 おおむね5年ごとに基礎調査を実施する。29年度は、その結果に基づき、どのように農業振興をはかつていくか計画をまとめる。

また、図面データ等と連動させた農業振興構築し、町民からの相談に活用するなど、利便性をはかる。